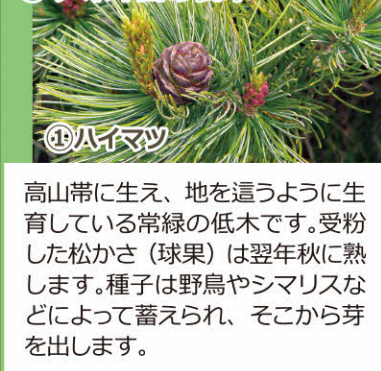


▶アポイ岳の高山植物

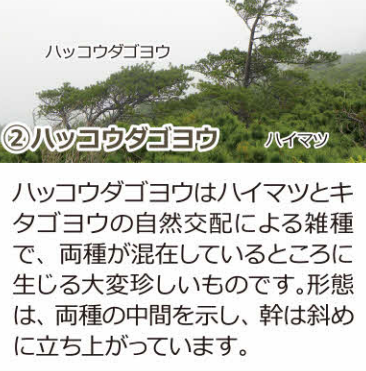


▶アポイ岳の樹木



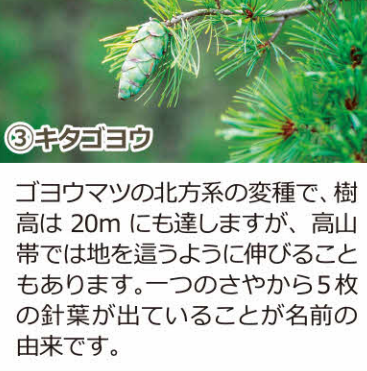
高山帯に生え、地を這うように生育している常緑の低木です。受粉した松かさ(球果)は翌年秋に熟します。種子は野鳥やシマリスなどによって蓄えられ、そこから芽を出します。

▶アポイ岳の動物



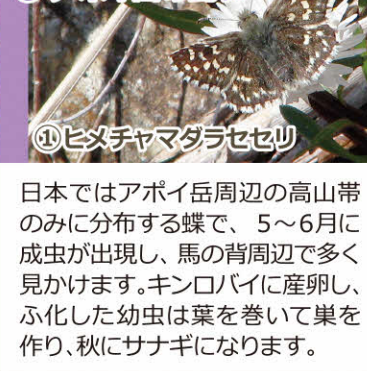
日本ではアポイ岳周辺の高山帯のみに分布する蝶で、5~6月に成虫が出現し、馬の背周辺で多く見かけます。キンロバイに産卵し、ふ化した幼虫は葉を巻いて巣を作り、秋にサナギになります。

▶アポイ岳の動物



アポイ岳周辺にのみ分布し、低山地から山地の岩石のすきまなどに生息する陸貝です。殻の大きさは成体で1cm程度、茶褐色で、表面に硬く細い毛が生えています。

▶アポイ岳の動物

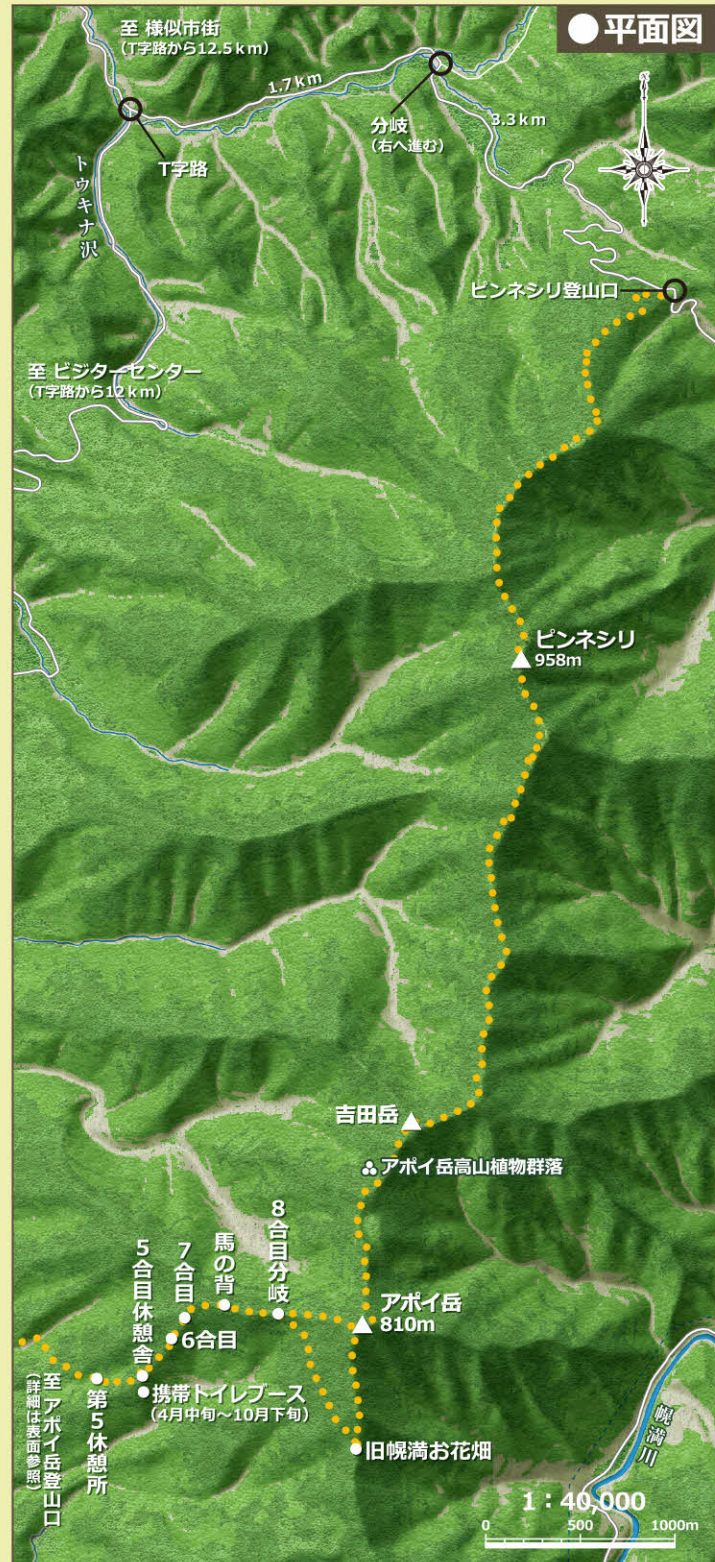


ナキウサギの仲間は、アジアから北アメリカの寒冷な気候の土地に分布しています。日本では北海道の高山帯に生息していますが、アポイ岳周辺では標高50mでも確認されています。

●主な植物の花暦

植物名(標準和名)	開花時期	花の色
固有種 (アポイ岳周辺に限って分布している種)		
① ヒダカソウ	5月上旬~6月上旬	白色
② アポイカンパ	5月	赤茶色
③ エソコウソリナ	6月中旬~7月中旬	黄色
④ アポイアザミ	7月上旬~8月下旬	赤紫色
⑤ サマニオトギリ	7月中旬~8月下旬	黄色
準固有種 (アポイ岳周辺の他、1~2の地域に限って分布している種)		
アポイタヌキラン	5月~6月	クリーム色
⑥ ヒダカイワザクラ	5月中旬~6月上旬	赤紫色
⑦ ミヤマハンモドキ	5月中旬~6月	クリーム色
⑧ サマニカラマツ	5月中旬~6月中旬	白色
⑧ エソタカネニガナ	6月中旬~7月中旬	黄色
⑧ エソイヌヒゲ	8月下旬	クリーム色
固有変種 (基本となる種とは中間形があって連続するが、アポイ岳周辺に限られる変種)		
⑨ ヒダカトウヒレン	8月中旬~9月中旬	赤紫色
準固有変種 (アポイ岳周辺の他、1~2の地域に限って分布している変種)		
⑩ ホソバトウキ	7月~8月	白色
固有変種 (基本となる種がからん岩の影響で、形態的に2~3点の変化・変形があるもので、アポイ岳周辺に限って分布している変種)		
⑪ アポイアズマギク	5月上旬~7月上旬	白色
⑫ サマニキワリ	5月上旬~6月上旬	赤紫色
⑬ アポイキンバイ	5月中旬~6月中旬	黄色
⑭ アポイヤマブキシヨウマ	6月中旬~7月下旬	クリーム色
⑮ アポイマンテマ	7月中旬~8月中旬	白色
⑯ ヒメシラネニンジン	7月~8月	白色
⑰ アポイツメクサ	7月上旬~8月中旬	白色
⑱ アポイカラマツ	6月上旬~7月上旬	黄色
準固有変種 (アポイ岳周辺の他、1~2の地域に限って分布している変種で、超塩基性岩地域や石灰岩地域に限って分布)		
⑲ エソキシミレ	5月中旬~6月中旬	黄色
⑳ アポイゼキショウ	6月中旬~7月中旬	白色
㉑ ヒメエソネギ	7月中旬~8月中旬	赤紫色
㉒ エソサイコ	7月中旬~8月中旬	黄色
㉓ ピロウドエソシオガマ	7月中旬~8月中旬	白色
㉔ チャボヤマハギ	7月下旬~8月	赤紫色
㉕ ヒダカトリカブト	9月~10月	青紫色
固有品種 (基本となる種(種・変種・変種)がからん岩の影響で、形態的に1~2点の変化・変形があるもので、アポイ岳周辺に限って分布している変種)		
㉖ アポイクワカタ	6月上旬~7月上旬	青紫色
㉗ アポイハハコ	7月中旬~8月中旬	白色
㉘ ヒダカミセバヤ	8月上旬~9月下旬	赤紫色
準固有品種 (アポイ岳周辺の他、1~2の地域に限って分布している品種)		
㉙ エソノハクサンボウフウ	6月中旬~8月	白色
その他の花		
フイリミヤマスミレ	4月下旬~6月	青紫色
ショウジョウバカマ	4月下旬~5月	赤紫色
㉚ チングルマ	5月中旬~6月	白色
ミヤマオダマキ	5月下旬~6月	青紫色
ミヤマナカマド	5月下旬~6月	白色
㉛ キンロバイ	6月中旬~9月	黄色
ハクサンシャクナゲ	6月下旬~7月	桃色
チシマキンレイカ	6月	黄色
㉜ エソリムラサキ	7月中旬~8月中旬	青色
ネジバナ	8月~9月	赤紫色

注意
 ① 名前や分類は学者によって見解が異なる場合があります。
 ② 開花時期はおおよそのもので、必ず見られるものではありません。
 ③ 花の色は大まかに分けたものです。
 ④ 超塩基性岩とは、火成岩のうち二酸化珪素の含有量が45%以下の岩石で、化学で用いられる「塩基性」(アルカリ性)とは異なります。
 写真提供: アポイ岳ジオパークビジターセンター



●ピンネシリコース情報

(上段は登りの、下段は下りの時間(分)、中段は距離(m)を示しています。数字はおおよそのものです。)

アポイ岳	←60	←110	←130	ピンネシリ	←130	ピンネシリ
1150	70→	2650	120→	2200	100→	登山口
		吉田岳		ピンネシリ		

ピンネシリ登山口~ピンネシリ~吉田岳の間は登山道が明瞭でない所もありますので注意が必要です。また、やぶの中を歩いたあとは「マダニ」のチェックを忘れず! ピンネシリはアイヌ語のピンネ(男である)・シリ(山)が由来です。

●ピンネシリ登山口はわかりづらい!

登山口へは3ルートあり、一般的な2つを紹介します。
 ①アポイ岳ジオパークビジターセンター入り口前の交差点を直進。約12km先のT字路を右折し、約1.7km先の分岐を右に進み、さらに約3.3km進んだ先の尾根が登山口です。登山口には数台分の駐車場があります。
 ②様似市街から道道233号を新富方向へ約10km進み、「ジオパーク・石灰岩のブロック」の看板を右折し、約2.5km進むと①のT字路と合流します。そこから先は①と同じです。